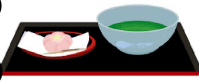


校長室より いっぴく



令和4年7月8日
長瀬小学校
校長室だより
No.5

「第1回 学ぼう 校長室の一服で」 ～ ちょうだいいたします ～

短い梅雨が終わり、暑い日々に子供たちの体調が気になります。6月から「学ぼう 校長室の一服で」を行いました。今回のめあては、「お礼の気持ちをこめて、『ちょうだいいたします。』と言って、いただきます。」でした。このめあては、昨年度と同じでしたので、子供たちは、思い出しながら味わっていました。余裕がある子供たちからは、質問もあり、興味を持ってくれたことがうれしかったです。ふりかえりシートに書かれた感想を数名紹介します。



《2年》 「いただきます。」と「ちょうだいいたします。」のちがいは何だろうと思いました。1年生のころよりもにがくなく、おいしく感じました。

《2年》 「ちょうだいいたします。」といったら、あいてもいいきもちになります。

《3年》 どのタイミングで「ちょうだいいたします。」といえいいのか、わかんなかったです。

《3年》 校長先生にかんしゃしてのみました。前回のお茶よりは少しにがかったけど、おいしかったです。

《4年》 「ちょうだいいたします。」という言葉は、あまり言わないので少しきんちょうしました。「いただきます。」よりも、ていねいで心を伝えることのできる言葉だなと思いました。家で夕ごはんを食べるときに「ちょうだいいたします。」と試してみました。母は、「どうぞ、めしあがね。」と笑顔でていねいに返してくれました。これからも「ちょうだいいたします。」という言葉大切にしたいと思いました。

《5年》 4年生のときにも一度参加してみて、あのときよりも少し苦味を感じました。でも、甘いおかしを食べたことで苦味が少し感じなくなり、おいしかったです。私もお茶に興味があり、お茶のセットを買いました。家族がお茶を飲んでくれてうれしいです。また、お茶を教えてください。

《6年》 「いただきます。」とは感謝の度合いがちがうような気がした。ふだんは、「いただきます。」という言葉を使っているが、「ちょうだいいたします。」という言葉には、美しいひびきを感じられた。お茶を点てる側も、おもてなしをしたい気持ちが大きいし、お茶をのむ側も、おもてなしを受けたいという気持ちがあるからこそ、このようなきれいな言葉が出るのだと思った。